

学校だより

12月号

重点目標 みんなでいっぱい

学びを深めるための いっぱ

多くの人は「学校は勉強するところだ」と思っています。

中央林間小学校では、国語、算数などの教科においても、今年度は「みんなで いっぱ」を重点目標に日々授業を展開しています。では、どのような「みんなでいっぱい」なのでしょう。

4つのプロジェクトの中の1つ「学びを深めるための いっぱ」の内容の具体的な取り組みを、いくつかご紹介します。



「自らの考えを伝えあい、学びを深めあえる児童の育成」

子どもは、持っている知識と、新たに学び知った内容がつながり、「そうか」「そういうことだったのか」と関連づき、心から「わかった」と感じるところに、学習する喜びがあります。

新たな知識とは、新たに学習する、主に教科書に沿った内容です。

教員が、その内容を語り、写真、映像、などの資料を提示します。パソコンや本で内容を調べてみようとして投げかけることもありますが、「そうか、わかった」が「そうだったのか」という喜びまで到達させるためには、何かひと工夫必要だと考えます。そこで工夫するのが友だちと交流する活動です。

○国語の物語の学習では、「叙述をもとに、自分の考えと友だちと意見交換してみよう」

○社会科買い物調べでは、「家の人に聞いて調べてきたことを、友だちに伝えよう」

○体育のタグラグビーでは、「試合を見て、チームの攻め方のよかったところを伝えてあげよう」

教員は、授業の途中、または最後に「クラスみんなに伝えたいことはありますか」「〇〇さん、もう少し詳しく伝えてくれますか」など、子どもの意見を注意深く聞き取り、内容を深める問いかけをするよう心がけています。

子どもは、とても素直に「ああ（そういうことだったのか）」と感嘆の言葉で反応します。「これは、〇〇なんだね」という〇〇の部分を一一人一人から引き出したいと、教員は常々願っています。



漢字練習や計算練習を一人でコツコツ進めることも大事です。「隣の席の友だちも、コツコツやっているの頑張れる」ことも含め、みんなで高め合う学びの集団作りを目指しています。（校長）

「寺子屋で学ぼう」

「放課後寺子屋やまと」は、火・木・金の週に3回、開催しています。「学校の授業の内容をじっくり復習したい」「もっと多くの問題を解いてみたい」など、自分のペースで学習し、わからないところは寺子屋の先生にすぐに質問することができます。

チェック 注意 ヒント

重要! 答え まとめ

メモ 問題 ポイント